

2010-2011 年度
RI 会長
レイ・クリンギンスミス
RI 第 2760 地区ガバナー
田嶋 好博



田原パシフィックロータリークラブ
例会場/華山会館 1F TEL(0531)22-1700
事務所/田原市田原町巴江 12 番地の 1
華山会館 3F(〒441-3421)
TEL(0531)22-5955 FAX(0531)22-7120
URL <http://www.pacific-rc.com>
E-mail info@pacific-rc.com
会長/鈴木 卓
幹事/大久保 寛
クラブ奉仕委員長/林 俊樹
クラブ会報委員長/河合 成幸

第 22 回 (No. 963) 平成 22 年 12 月 14 日

担当: プログラム委員会

《 ゲストスピーチ 》

例会場: 華山会館 1F

■点鐘 午後 7 時 00 分

■ロータリーソング斉唱 「それでこそローリー」

■来訪者紹介並びに会長報告 鈴木卓会長



先週の日曜日、豊田慈證君のお宅で落語会がありました。うちの会員も大勢参加して頂き非常に楽しい会が出来ました。この間、来て頂いた若圓歌さんに丁重にお礼を申し上げてきました。

今日のゲストスピーカーは前議員ということで田原市も今きな臭いところがあります中で、こういう話をするのがいいのか悪いのかとも思いますが、素晴らしいスピーカーに来て頂きました。そして、会長としては言ってはいけないのかもしれませんが、2、3 日前の新聞に議員の給料を少し上げようと提案している記事が載っており、僕は率直におやおやという感想を持って読ませて頂きました。今日はそういう中でいい話を聞かせて頂きたいと思っております。

■来訪者紹介

○ゲスト 前衆議院議員 杉田元司様

○ビジター 田原 RC 広中康男会員

■幹事報告 大久保寛幹事

- ・ 12 月 21 日 クリスマス家族例会
- ・ 12 月 28 日・1 月 4 日 ロータリー休日の為休会
- ・ 1 月 11 日 新年例会 ゲストスピーチ 内柴義郎
- ・ 1 月 18 日 ゲストスピーチ 豊橋教育長 加藤正俊様

■委員会報告

○親睦委員会 山崎昇委員長

親睦委員会の皆さんは例会終了後ロビーへお願いします。

○米山奨学 大羽秀和委員長

先程の領収書は当クラブから米山へ纏めて出した領収書です。後程、個人の領収書はきます。

■米山奨学 表彰

彦坂敏行会員、河合喜嗣会員、尾原脩会員、

鈴木照幸会員、松井準治会員

来年も皆様に多大なるご寄付をお願いすると思っておりますので宜しくお願いします。

■出席報告 小川高成出席委員会委員長

会員総数 59 名 出席義務者 55 名

本日の出席者 43 名 欠席者 13 名

本日の出席率 76.79%

12 月 7 日 (前回補正後 名欠 未%)

■ニコニコボックス

- ・ 鈴木卓会長・大久保寛幹事…杉田様ご多忙の中ありがとうございます。スピーチよろしく。広中さんよろこそ
- ・ 柴田清会員・豊田慈證会員…杉田元司さんよろこそおいで下さいました。スピーチを楽しみにしております。
- ・ 佐野辰巳会員…杉田元司様お忙しい中お越し頂きありがとうございます。スピーチよろしくお願い致します。昨日はお疲れさまでした。
- ・ 磯田国男会員…杉田元司様お忙しいところスピーチありがとうございます。
- ・ 彦坂敏行会員…杉田さん久しぶりです。スピーチ楽しみにしています。
- ・ 鈴木達司会員…広中様よろこそ。杉田様今夜は楽しみにしています。

■ゲストスピーカー紹介 豊田慈證委員長

前衆議院議員で愛知県連第 14 区支部長でご活躍をされておりました杉田元司様です。実は私と成章時代の同級生で 1、2 ヶ月前に気楽にスピーチをお願いしたところ今、大変時の人になっております。昭和 45 年 3 月卒で今も当時と全く同じ顔をされていて高校時代も大変落ち着いた感じでした。若い盛運の志を今でも燃え滾らせている雰囲気です。既に高校時代に法律関係に進む気持ちを持たれ、大学時代に村田敬次郎先生と出会い政治の道に入って足掛け 40 年以上自分のぶれない志を貫き通しているというのは大変素晴らしい事と思っております。成章の私共の同級生は結構活躍している人も多く、その中でも杉田さんは出世頭の 1 人になるかと思えます。さまざまな特性、県政の姿勢から国、県、東三河を見つめてこられた杉田さんから今日は大変貴重な話をして頂けると期待しております。宜しくお願い致します。

■ゲストスピーチ 杉田元司様



今日は壇上に上がらせて頂いた時から額に汗が噴き出てきました。杉田元司です。田原PRCの例会にお招き頂きまして心から感謝を申し上げます。今日まで40年近くという紹介があり

ましたが、高校時代から法律を目指していた訳ではありません。小学生の時、政治に少し興味を持ちました。私の家はうどん屋で80年位続きました。当時はうどん屋になるか違う道かと迷いました。小学校の時に私の家の前の道路が国道になりました。皆、国道になって万歳していましたがその後、車は通って行くだけで萱町の商店街は段々と下火になっていきました。私は父親に聞きました。「何故、出来る前に皆で集まって反対するなり、声を出さなかったのか。」それが最初に政治とは商人や一商店主の小さな声は届かず、もっと大きな流れの中で仕組みが出来ているのかと小学校時代に疑問に思った事を小学4年生の作文で書きました。それからずっと政治は遠のいていましたが、大学時代東京から帰省中にふと私のうどん屋へ村田敬次郎代議士がうどんを食べに寄られて、目が合った瞬間に私の方から話しかけてしまったのです。その時に頂いた1枚の名刺を便りに東京に帰り議員会館に立ち寄りしました。そうしたら何冊かの本を渡され、嬉しくて一夜漬けて読み感想を述べに行ったらもう会ってはいませんでした。会ってくれない悔しさから2ヶ月程毎日、学校を抜けては議員会館に通っていました。そのうち渥美半島の中学生が修学旅行で国会見学があり明日、君の学校の生徒さんが修学旅行見学で来るから国会を案内してこいという使命を頂きました。それも一夜漬けて国会の中身の勉強をして、当事私が教えて貰った恩師もおり、子供達に得意になって覚えてたの知識を汗だくになって説明しました。次は赤羽根中学、野田中学、東部中学と毎日行って子供達の相手をしたことが政治の世界へ入る切っ掛けになりました。大学3年生の終り頃、恩師から公務員は止めとけ僕も役人の上がりだけ役人は目先が本当に狭い、それよりは政治の世界で勉強し、そこからいろんな事を学んで好きな道に行っても遅くはない。若いうちは経験だ。その時に秘書にこのまま事務所に残れと言われたのが発端になりました。昔から考えると政治の世界は途方もないお金が必要だと私も秘書をやっている間かされました。今だから言えますが、5当4落（5億円で当選、4億円で落選）そんな事はないだろうと思っていましたが実際にはその世界でした。しかし、政治資金規制法が変わって小選挙区制になってお金が掛からなくなりました。生々しい話ですが、僕も4当3落で僕のようなお金の無い者でも当事は4億円使ったのそんな世界。私は政治家の父親もいませんし関わりのある方もいませんでした。ましてお金はありませんからそういう世界に入る事など夢にも思えなかったそれが、今やこうしていろんな意欲を持った者が政治に参加出来る様になったことは非常に大きな意味だと思っています。ただ、小沢一郎さん問題等々もそうですが、企業の献金が廃止だとか個人献金のみでやっていこうという時代になると今までの様な誰でも出ていける時代

からまた遠ざかっていくのか、政党助成金に頼っている今、そうしたものも見直しの対象になるともう一度また血筋の方、地盤を持った方、お金を持った人しかこの狭き門の前に立つことが出来なくなる危険な事を感じております。子供の頃からそんなに特徴のある人間ではありませんでした。勉強もそれ程ではなく、中学校の2、3年生の渥美郡の相撲大会で優勝した事は私の人生の中でも輝かしい経歴であります。走るのがちょっと速くて東三大会で決勝まで進出出来たことと相撲くらいの取り得の私がかまか政治の道に入って正味38年やる事になります。21年の長い下積み生活の中で沢山の事を学んできました。実際に自分が政治の本舞台へ足を踏み入れる時には豊橋の県会議員選挙の出馬を恩師にそんな危険な闘いに打つべきではないと断られました。私は踏まれると物凄く闘争心が沸いてくる性格で駄目だと言われたらいつその事立ち向かっていきたい気持ちで46歳の時に県会議員にチャレンジをさせて頂き13年になろうとしています。自民党の公認は何も無く無所属で家内と二人で始め、投票日まで150日しかないところからスタートを切った政治の本舞台への私の決意でした。県議会を務めている中で突然、今の14区豊川、蒲郡、新城から是非14区の支部選挙に出馬しろと命令が下り5年4ヶ月前の衆議院選挙に立候補させて頂きました。その時も決意から1ヶ月ない選挙をしました。いつも切羽詰った状況の中で選挙という厳しい扉を叩き続けてまいりました。ただ、残念ながら昨年8月31日の衆議院選挙では大きく溝を空けられて志を成し遂げる事が出来なかった。しかし、この1年4ヶ月の間、政治を冷静に眺める時間を頂いたと思っております。40年近く政治の舞台の中で影になり、表に出て活動してきてこうして1年4ヶ月舞台から外れて考えるとまさに今の政治はこれでよいのかという疑問符ばかりが毎日付いてまいります。あの時のマニフェスト、我々が唱えてきた事、確かに垢や膿が溜まっていた。そうした垢や膿が完全に1度捨て去られました。その捨て去られた中に私共自民党の1年3ヶ月をみていますと私は今の管さんもそうですが、鳩山総理は外交を舞台とした普天間の問題も県外や国外に移すとといった軽い口約束を沖縄県民の方々にしてしまったと、今までに無かった（第2次世界大戦を除いて）日本外交を恥ずかしい部分だと思っております。私が現職の時4年間で名も無い地方議員で集まり「無名の会」という総理、総理関係者に勉強会を開いておりました。歴代の総理小泉さんをはじめ麻生さん、阿部さん、福田さんなど40人近い方々を招いてやった勉強会の中で今でも印象的なのが小泉純一郎さんの言われた、私から質問しました「総理というのは何時何処でどの様な決断を下すのですか」例えば北朝鮮の拉致問題の件、靖国神社参拝の件、その他外交姿勢、北朝鮮の金主席の処に行く時小泉さんは自分の命を失うかもしれない場所での決断。小泉さんの決断の方法はいろんな方に（10人いれば10人それぞれの方に）意見を言って頂き、10人目の意見が終わった時に私は結論を必ず出しますと言われました。「2度聞き返すな、2度目の意見を聞くとその方の意見に心が揺らぐ」こんな決断を私自身はしてきた。今の政権でこういう決断の仕方をする人がいるのかとついつい考えさせら

れます。靖国神社問題も山崎拓さんの助言により8月15日終戦の日を待たず前倒しにして8月13日に靖国参拝をした決断だけは自分が間違っただけだと言っておりました。確かに一国のリーダーになる方はどんな時でも決断を誤ってはいけないと思っております。靖国神社に5年間も通い続けたのは中国に対する強気の外交姿勢だったそうです。あそこで靖国神社に参拝をしなかったならば、中国は外交姿勢の中で小泉首相は腰砕けと足元の弱さを見抜きODA（政府開発援助）を上乗せしてきます。ODAは何処に使われているのか小泉さんも安部さんも皆知っています。私が安部総理から直接聞いた話ですが、日本から中国へ戦後64年から延々続いてきた開発援助は国家予算として中国人民大会に掛けなくてもいいお金なのです。私達の貴重なお金が中国の資源外交、アフリカの資源外交、石油や今のレアアースに我々のお金が使われています。独裁国はまた国会の予算を通さずポケットマネーとして我々の税金が公然と使われる中で資源というものの外交世界戦略を止めさせなければいけない、中国と本当の戦後終結をしたいという事から靖国神社に5年も通い続けました。この話を聞いた時に私はまさに普天間の県外、国外移籍、尖閣諸島も日本の外交の足元を見られてしまった。北方四島もしかりです。胡錦濤さんとメドベージェフ大統領が中国で秘密の会談をされているのは尖閣諸島と北方四島同時に日本の日米同盟がぐらつき始めたからお互いに国がそれぞれの領土と主張し始めている。1951年のサンフランシスコ条約が成立してその後57年に日米同盟が新しく改定されました。私達の国は北方四島に墓参りすら行くにはロシアにビザの請求をしなければ行けません。ビザの請求をするという事は北方四島がロシアの領土であると認めざるおえない訳です。終戦になった昭和20年8月15日、そして8月7日にロシア（ソビエト）が日ソ中立条約を一方的に破棄し、北方四島に入ってきました。当事1万6000人いた島民は強制退去され、その後1万9000人のロシア人が生活しております。今、尖閣どころか沖縄まで中国の本来の領土であると主張し始めてきました。大変恐ろしい事です。普天間をはじめとする日米同盟は鳩山総理が退任間近になって日米の抑止力を初めて勉強したと言われた抑止力が、あの様な決断でした。尖閣諸島は油田をはじめ中国の豊かになりつつある上海をはじめとする湾岸部の方々、大体2億人位が生活しています。食を満す為には何処へでも自由に航海が出来て漁業権が獲得できる様に台湾と尖閣とその先の沖縄が邪魔なのです。日本がぐらついた時に攻勢を掛けようというのが中国とロシアの狙いであろうと思っております。5年程前にこういう話をしていましたら笑われました。中国では日本の青森の林檎やキャラクター等も同じ様な名前を使って堂々と売り出している。知的財産権も中国に対して法的な国際法に照らし合わせて文句を言っています。しかし、今度中国政府は漢字は中国から日本に伝わったからと漢字の知的財産権を日本に求めています。まさに外交というのは本当に揺らぐところまで揺らぎ始めました。もう私達が憲法の9条を含め日米同盟をもう1度、この国の形を我々で守っていくという自覚を持たない限りはいつのまにかチベット自治区や新疆ウイグル地区や、台湾が絶え

ず中国の脅威にさらされている様に日本という国もいつの時代かは日本中国自治区こんな危険性すら含んでいる。その場合に果たしてアメリカが命を掛けてこの日本を守るだろうか。私は、アメリカは日米同盟にあるにも関わらず日本という国を守る責務は起こりえないと思っております。我国は今、財政問題で大変追い詰められた状況になっております。全盛期64兆円あった日本の収入が今年度の収入は37兆円、今年的一般会計は92兆円、来年度予算は94兆円、37兆の収入で94兆円の国家予算を運営していかなければいけない。国債発行は44兆円という途方も無い額に膨れ上がっています。900兆円を超える日本の借金、消費税1%は2兆5000億円の収入で当時消費税議論の収入が50兆近くありました。ところが社会保障費が30兆円、毎年1兆円ずつ増えていきますから10年後には社会保障費が40兆円になってしまいます。この計算でいけば20年後には社会保障関連と今の税収の50兆で全ての税収が社会保障で無くなっていく。教育も学校すらこれから建てるのが出来なくなっていく。そういう中から2016年までこのプライマリーバランスを保っていかうというのが2005年に小泉純一郎さんの「骨太の方針」方針でした。その為には国債の発行を30兆に留めようという政策、郵政の改革、消費税を5%上げなければならぬと言った小泉さんの就任当初の約束。5年経って景気刺激策が順調に税収を増やして1%税収2兆5000億円を7兆5000億から8兆円増やしました。4%位の消費税分の税収が入ってきたから小泉さんはもう私の内閣では消費税の議論はしませんという約束をされたのです。今は94兆円の予算を組もうとしている時に44兆円の国債発行、去年も44兆円でした。子供手当とか高等学校の無償化、高速道路の無料化、農業者戸別所得補償など無理がある公約を今、しっかりと見直していかないと日本の内政経済は破綻をする危機に直面しています。もう一度今、政治の原点に立ち返って私達はしっかりとした目で選択をしていかなければいけないと思っております。この数日の間、私自身も14区の支部長辞任をする決意をさせて頂きました。14区にいる時、故郷という歌が流れてくると5年間の身につつまされ涙する様な気持ちになりました。故郷へいつか帰ってみたいとずっと持ち続けておりました。2日前から14区支部長を辞任し、自由な立場に身をおく事になりましたがこれからも政治への希望や気持ちを忘れる事なくしっかりと充電期間として新しい地域や、国の為の1歩を踏み出していきたい気持ちで今日こんな会にお招き頂きました事を心から感謝申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

■お礼の言葉 鈴木卓会長

杉田さんありがとうございました。いろいろ示唆にとんだお話、それからそういうことなのかということも聞かせて頂きました。自分自身の事はあまり遠慮して言わなかったのですが、これからのいろいろと期待しておりますのでしっかりと頑張ってください。お願い致します。

■点鐘午後8時00分 記 河合成幸